

君津中央病院企業団  
第2次3か年経営計画  
(平成22年度達成状況)

君津中央病院企業団

1	第2次3か年経営計画の概要	1 ページ
2	主要施策の達成状況等	1 ページ
3	個別施策の項目別達成状況等	2 ページ
4	財務計画の達成状況等	2 ページ
5	財務計画の達成状況等の具体的な数値等	2 ページ
6	経営改革委員会の評価	3 ページ
	別表	4 ページ
	財務計画の達成状況	19 ページ
	経営改革委員会の評価	23 ページ

## 1 第2次3か年経営計画の概要

本計画は、君津中央病院企業団が、地域中核病院として担うべき良質で安全な医療を提供し、患者サービスの向上とともに、「経営の効率化」を図り、持続可能な病院経営を目指すために策定した、平成21年度から平成23年度までの3か年計画です。

## 2 主要施策の達成状況等

経営の効率化を進めるため、(1)経営指標に係る数値目標を設定し、(2)「収支の改善」と「経営の安定化と医療サービスの充実」の2つを主要施策に大別して、8施策65項目を体系的に設定しています。

(1) 経営指標に係る数値目標の達成状況 (単位：%)

区分		21年度 (目標値)	達成 状況	達成率	22年度 (目標値)	達成 状況	達成率	23年度 (目標値)
病床利用率	本院	89.3	84.2	94.3	89.3	84.6	94.7	89.3
	分院	88.9	91.5	102.9	88.9	91.3	102.7	88.9
経常収支比率	本院	100.2	101.6	101.4	100.2	103.4	103.2	100.2
	分院	100.2	106.8	106.6	100.1	106.9	106.8	100.1
医業収支比率	本院	93.4	95.4	102.1	93.2	96.9	104.0	93.3
	分院	100.8	106.9	106.1	99.8	104.8	105.0	99.8
職員給与比率 (対医業収益比)	本院	60.5	58.3	103.8	60.9	58.3	104.5	60.8
		51.3	49.2	104.3	51.7	48.7	106.2	51.8
	分院	69.4	67.2	103.3	70.3	69.5	101.2	70.8
		51.0	50.0	102.0	51.8	50.1	103.4	52.3
材料費比率 (対医業収益比)	本院	24.8	26.4	93.9	24.8	25.9	95.8	24.8
	分院	13.5	12.8	105.5	13.5	12.4	108.9	13.5

※職員給与比率の下段の額は、給与費から賃金分を除いた額の比率です。

(2) 主要施策の達成状況及び取組みを要する項目

「収支の改善」

収支の改善は、5施策27項目から成り、各項目において平成22年度目標の達成に向け取組みを行いました。

医師及び看護師の確保については、概ね当初の目的を達成しました。引続き医師及び看護師の確保に努めていきます。

患者数の増加対策については、診療科目の拡大、透析センターの拡大、外来施設機能の充実、紹介患者及び逆紹介患者の増加において良好な成績をあげました。今後、一層の取組みを要する項目として、予約、待ち時間の改善及び当日電話予約の拡大があげられ、新規患者等の増加による待ち時間の延長を改善するための予約枠の増加に取組みます。また、診療制限せざるを得ない診療科が存在し電話予約枠を設定するのが困難な状況のため、医師の増員と併せて取組みます。

収入の確保対策については、地域医療支援病院の承認、医師事務作業補助加算の取得、適正な平均在院日数の維持、薬剤師による服薬指導の強化、診療報酬査定減対策において良好な成果をあげました。今後、取組むべき項目としては、結核病床の転用があげられます。

未収金の縮減対策については、患者情報共有化の推進において良好な成果をあげました。今後は、診療費支払方法の拡大に取組むこととなります。

経営分析による経費削減対策については、材料費の節減(一部)、その他経費の節減(一部)、業績評価制度の導入において良好な成果をあげ、人件費の

削減も実施しました。今後は、材料費の節減（残りの一部）、その他経費の節減（残りの一部）、不採算部門の見直しにおいて取り組むことになります。

「経営の安定と医療サービスの充実」

経営の安定と医療サービスの充実は、3施策38項目から成り、各項目の目標達成に向けた取り組み状況は次のとおりです。

医療提供体制の整備については、関係医療機関との役割分担、広報紙による周知、地域連携パスの検討、診療パフォーマンス指標の他施設比較、リニアックの更新、外部評価の推進において良好な成果をあげました。今後は、電子カルテシステムの導入について取り組みを要します。

診療機能の整備充実については、新型インフルエンザ等感染症対策の充実において良好な成果をあげました。今後は、看護師を確保し、ICU病棟の稼働病床を増やし、救命救急センターの充実に取り組むことになります。

事務処理の効率化等については、病院各部署の改革、責任体制の強化において良好な成果をあげました。今後は、情報システムの整備等において更に検討を重ねる必要があります。

### 3 個別施策の項目別達成状況等

収支の改善に係る5施策27項目、経営の安定化と医療サービスの充実に係る3施策38項目については、別表（4ページ以降）のとおり取り組みました。

### 4 財務計画の達成状況等

財務計画については、次のような結果となりました。

業務量においては、本院は計画を下回り、入院延患者数は計画数215,350人に対し、決算数204,095人、1日平均入院患者数は計画数590人に対し、決算数559人、外来延患者数は計画数329,120人に対し、決算数289,001人、1日平均外来患者数は計画数1,360人に対し、決算数1,189人となりました。分院は、入院は計画をやや上回り、外来は下回りました。入院延患者数は計画数11,680人に対し、決算数11,995人、1日平均入院患者数は計画数32人に対し、決算数33人、外来延患者数は計画数62,920人に対し、決算数53,825人、1日平均外来患者数は計画数260人に対し、決算数222人となりました。

収益的収支計画においては、本院の経常利益が計画額2,800万円に対し、決算額は5億6,700万円、分院の経常利益が計画額100万円に対し、決算額は4,300万円となり、いずれも良好な成果を得ました。

資本的収支計画においては、収入から支出を引いた資金不足額が計画額21億1,300万円に対し、支出予算を執行したうえでの資金不足額は、血液浄化療法センターの新築及びリニアックの更新等による建設改良費が増加したため、25億2,900万円の執行となりました。

内部留保資金の計画においては、損益勘定留保資金の翌年度繰越額が計画額22億3,400万円に対し、決算額は19億9,000万円となり、2億4,400万円の減少となりました。

経営指標においては、本院は経常収支比率、医業収支比率において良好な結果を示し、分院は病床利用率、経常収支比率、医業収支比率において良好な結果を示しました。

### 5 財務計画の達成状況等の具体的な数値等

財務計画の具体的な達成状況は、18ページ以降のとおりです。

## 6 経営改革委員会の評価

本計画は、経営改革委員会の点検を受け、その評価を公表することとしています。同委員会の評価は、22ページ以降のとおりです。

別表

1 収支の改善

1 医師及び看護師の確保対策

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	医師確保の推進	①千葉大学医局及び他大学医局への派遣依頼 ②民間人材斡旋事業者の活用（確保困難な診療科） ③研修病院合同説明会への出席 ・後期研修医対象 1回 ・初期研修医対象 2回 ④求人誌への掲載 ⑤ホームページ、Webサイトからの公募	平成23年4月と平成22年4月の医師数を比較すると8人の増員となりました。 [内訳] <22年> <23年> 正職員 94人 → 97人 後期研修 29人 → 31人 初期研修 21人 → 24人 計 144人 → 152人  [増員となった診療科] 呼吸器内科、消化器内科、循環器科、総合診療科、呼吸器外科、心臓血管外科、救急・集中治療科、緩和医療科 [減員となった診療科] 腎臓内科、内分泌代謝科、血液・腫瘍内科、小児科、麻酔科、病理診断科  [その他] 産婦人科及び泌尿器科の嘱託医師1名ずつを確保。産婦人科においては医師の業務軽減を図ることができました。泌尿器科においては常勤医が不在でしたが、外来の予約診療が可能となりました。  増員目標として正規職員医師を100名に設定しており、若干達成できなかったものの、研修医は増員することができました。	平成22年度と同様に取組みを行っていき、医師確保を図ります。 [目標] 平成23年度 正規職員100人 平成24年度 正規職員105人
	臨床研修制度の充実	①厚生労働省に対し、初期研修医の受け入れ定員2名増を要望 ②指導医の養成として、臨床研修指導医養成講習会への参加を推進 ③研修の充実を図るためのプログラム責任者養成講習会への参加	○初期研修医の定員が2名増となり、10名の研修医を確保 ○講習修了済指導医5名の増加 ○プログラム責任者1名の増加	○平成22年度と同様に取組みを行っていき、医師確保を図ります。 ○平成24年度研修医の定員2名増を要望します。
	医師給与制度の見直し	○特殊勤務手当として地域救急医療業務手当を新設（大佐和分院） ○宿日直手当の副直手当を新設（臨床研修医） ○人事院勧告に倣った医師給料額の引下げの見送り（他の職種の中高齢層に限定して△0.19%）	○安定勤務の誘導及び地域医療への貢献を図ることができました。	○引続き、調査、検討を行います。 ○地域医療確保のため、支援の充実に努めます。
②	看護師確保の推進	①県内外の看護系大学、短大及び養成所を訪問 ・県内10校、県外17校 ②民間人材斡旋事業者の活用 ・4名活用	平成23年4月と平成22年4月の看護師数を比較すると、36人の増員となりました。 [内訳] <22年度> <23年度> 保健師 1人 → 1人	○平成22年度と同様に取組みを行っていき、看護師確保を図ります。 ○病院見学会及び就職説明会の開催回数を増やします。

		③合同就職説明会への出展 ・東京、盛岡、仙台会場 ④求人誌への掲載 ⑤離職防止対策の実施 ⑥病院見学会及び就職説明会の開催 ⑦インターンシップ研修会の開催（3回） ⑧県外就職試験の開催（仙台） ⑨看護師研究資金貸付制度の制定	助産師 16人 → 16人 （臨時） 3人 → 1人 看護師 499人 → 543人 （臨時） 21人 → 23人 准看護師 12人 → 8人 （臨時） 11人 → 7人 計 563人 → 599人  認定看護師を1人採用しました。	
③	看護師寄宿舎の整備構想の作成	近隣のアパート等の賃料他を調査しました。	近隣アパート等の賃料の実態を把握し、検討材料とすることができました。	将来構想検討委員会に報告。同委員会での検討事項としました。
④	院内保育所の拡充	6月 増築工事実施設計業務委託 8月 増築工事  3月 保育所竣工	○平成21年度保育所増築(案)を踏まえ、就学前までの保育児の入所可能な施設を設計・施工し平成23年3月に竣工に至りました。 ○3月末時点で36人定員中34人の利用（充足率94%）	平成23年度 ○保育児の入所希望が増加 医師・看護師確保あるいは育児休業中の職員の早期職場復帰に寄与しています。更なる希望者の増加を図ります。 ○園庭整備の実施
⑤	医師及び看護師の勤務状況の改善	○毎年時間外勤務(超過勤務)の実態を調査し、1か月に80時間を超える者に対しては、所属長及び職員本人あてに、時間外勤務の縮減及び定期健康診断の受診を促すことを通知 ※延べ人数:29名(医師他) ○メンタルヘルスのための雇用を検討	健康管理の徹底を図ることができました。	○引続き、実態調査及び職員への周知を図ります。 ○メンタルヘルスのための雇用を実施します。

## 2 患者数の増加対策

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	診療科目の拡大	腎臓内科の安定した診療の継続	腎臓内科入院収益 (4月～3月) 82,517千円  人工腎臓収益(全診療科合計) (4月～3月) 59,913千円	新築した血液浄化療法センターの稼働
	透析センターの拡大	毎月 開設準備室の会議を開催 5月 院内施設機能検討委員会血液浄化療法センター部会にて、血液浄化療法センター(新築)仕様の承認 6月～7月 実施設計一般競争入札告示開札 8月 透析装置購入一般競争入札告示、開札 10月～11月 新築工事一般競争入札告示、開札 11月～3月	50床の血液浄化療法センター新築の推進	平成23年4月 新血液浄化療法センター供用開始(段階的に増床)

		血液浄化療法センター新築 工事 3月 透析装置納入		
②	外来施設機能の充実	○臨床研修医室の確保（医局会議室を転用、会議室を地階に移動） ○病理医室の拡大（→建築基準法に抵触するため断念）	平成22年9月に臨床研修医室を確保及び会議室の整備	○外来化学療法室の整備（血液浄化療法センター内に20床の整備） ○会議室の確保
③	予約、待ち時間の改善	4月～6月 待ち時間の調査内容検討 6月 外来待ち時間調査実施 9月 当日予約不可患者調査 外来委員会、業務改善委員会に報告、検討、分析 10月 当日予約不可患者調査 11月 外来待ち時間調査実施 3月 平成23年度からの予約枠増加の検討	調査の結果、紹介患者・新規患者の増加による待ち時間の延長が判明	予約枠の増加 ・総合診療科 1日当り10人分を増加 ・循環器科（水、木曜日） 1日当り10人分を増加  ○予約診療待ち時間調査に基づき各診療科の現状調査 ○外来委員会を開催し、改善対象科の選定 ○外来委員会から業務改善委員会に改善対象科を報告 ○業務改善委員会にて改善対象科の部長ヒアリング ○診療体制の改善策を検討（診療予約枠の変更等） ○実施及び効果検証（患者待ち時間調査）
④	当日電話予約の拡大	9月 当日予約不可患者調査実施 10月 当日予約不可患者調査実施	[実績] ・小児科当日電話予約 1日20～30人 ・地域連携紹介の電話予約 年間5,875件 ・共同利用検査の電話予約 年間1,865件	医師の確保、増員状況を踏まえて検討を継続します。
⑤	紹介患者及び逆紹介患者の増加	7月 ・院内打合せ（病院長、地域連携室、医事課、経営企画課）2回 ・紹介率向上のため算定漏れの調査、改善（医事課） 12月 地域医療支援病院*1承認申請 紹介率 60.4% 逆紹介率 38.4% 1月 地域医療支援病院承認	[実績] 紹介率 逆紹介率 平成22年度 60.5% 36.7% 平成21年度 49.4% 34.1% 平成20年度 40.7% 27.1%  平成23年 2月 9,654千円の増収 3月 10,812千円の増収 ※地域医療支援病院入院診療加算（機能評価係数0.0327）実施前との比較	引き続き実績を積み上げ、紹介率または逆紹介率の向上について検討します。
⑥	一般病床の増床	結核病床の一部を一般病床として転用し、増床することを検討	県に一般病床及び結核病床の病床利用の現況を説明したうえで利用率の低い結核病床の一部を一般病床に転用したい意向を示し、県の理解を得ることができました。	千葉県保健医療計画の改定に伴い、一般病床の増床を検討します。

### 3 収入の確保対策

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	地域医療支	7月	[実績] 紹介率 逆紹介	引き続き実績を積み上げ、紹介

	援病院の承認	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内打合せ（病院長、地域連携室、医事課、経営企画課）2回</li> <li>紹介率向上のため算定漏れの調査、改善（医事課）</li> </ul> <p>12月 地域医療支援病院承認申請 紹介率 60.4% 逆紹介率 38.4%</p> <p>1月 地域医療支援病院承認</p>	<p>平成22年度 60.5% 36.7%</p> <p>平成21年度 49.4% 34.1%</p> <p>平成20年度 40.7% 27.1%</p> <p>平成23年 2月 9,654千円の増収 3月 10,812千円の増収 ※地域医療支援病院入院診療加算（機能評価係数0.0327）実施前との比較</p>	率または逆紹介率の向上について検討します。
②	医師事務作業補助加算の取得	研修等を実施し、要員を確保しました。	<p>7月 50対1補助体制加算を取得</p> <p>平成23年度 23,000千円の増収 ※機能評価係数0.0084加算 実施前との比較</p>	<p>更なる要員を確保し、医師の事務作業の軽減を図ると共に25対1補助体制加算の取得を目指します。</p> <p>35,000千円の増収（見込み） ※機能評価係数0.0161加算前との比較</p>
③	病床利用率の向上	<p>10月 病床委員会開催</p> <p>11月 亜急性期病床を28床から24床に変更、一般病床へ（7東病棟18床から14床へ）</p> <p>2月、3月 病床委員会による診療科別病床配分の見直しを検討</p>	<p>変更前（4月～10月） 7東病棟病床利用率 59.8% 亜急性期病床診療単価 26,734円</p> <p>変更後（11月～3月） 7東病棟病床利用率 84.0% 亜急性期病床診療単価 29,414円</p>	引続き検証を行い、病床利用の向上等に努めます。
	結核病床の転用	2月 千葉県疾病対策課へ減床相談	県に結核病床及び一般病床の病床利用の現況を説明したうえで利用率の低い結核病床の一部を一般病床に転用したい意向を示し、県の理解を得ることができました。	<p>6月 一般病床への転用に関する申請及び準備</p> <p>7月、8月 設計、契約</p> <p>9月 改修工事</p> <p>10月 一般病床として使用開始</p>
④	ドクターヘリの本格稼働	平成21年度より本格稼働		
⑤	適正な平均在院日数の維持	<p>○診療科別の在院日数、DPC*2算定期間等の統計を医事委員会で毎月報告</p> <p>○地域医療機関への逆紹介の推進</p> <p>9月、10月 亜急性期病床の利用率の分析・見直し、施設基準変更届出</p>	<p>4月～3月平均在院日数年度別の比較 平成21年度 14.4日 平成22年度 13.6日 (△0.8日)</p> <p>4月～3月平均DPC算定退院患者数年度別比較 平成21年度 12,055人 平成22年度 12,877人 (+822人)</p>	<p>○診療科別の在院日数、DPC算定期間等の統計を医事委員会で毎月報告</p> <p>○各科のDPC症例の効率化の検証を代表者連絡調整会議で報告</p> <p>○医師への情報提供</p> <p>○各診療科、地域連携との調整、協議収支改善対策実施</p>
⑥	薬剤師による服薬指導の強化	昨年度に引続き薬剤師の病棟業務に従事する時間を維持し入院患者の持参薬を含めた服薬指導を実施	[実績] 薬剤管理指導料 3 (325点) 3,812件/年=12,389千円	引続き服薬指導件数の維持に努めます。
⑦	診療報酬査定減対策	○研修会・勉強会への参加(内外)…16回	外来4月～3月 …平均0.04%(前年比同率%)	随時 各科（医師、看護師等）と

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師によるD P C院内研修会開催… 1回</li> <li>○課内異動により人員配置の適正化を図りました。</li> <li>○随時 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科（医師、看護師等）と診療報酬に関する勉強会の開催</li> <li>・医事担当職員の共通認識</li> </ul> </li> <li>○毎月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課内勉強会の開催</li> <li>・医事委員会の開催</li> <li>・査定傾向（減内容）の分析と医師への報告</li> <li>・減点されない症状詳記の作成依頼（検査数値の記載、図示の添付、誰でも読める字、横文字・略語を避ける、医師名の記載による詳記の責任等）</li> <li>・再審査請求の徹底（当医療機関の取組み姿勢、審査員へのアピール）</li> </ul> </li> </ul>	<p>入院4月～3月 …平均0.33%(前年比△0.11%) 全体4月～3月 …平均0.27%(前年比△0.08%)</p>	<p>診療報酬に関する勉強会の開催</p> <p>毎月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課内勉強会を定例開催し、職員相互のスキルアップを図ります。</li> <li>・査定減対策研究会を開催し査定傾向（減内容）の分析と再審査請求の検討を医師への報告</li> <li>・院外のD P C勉強会、診療報酬勉強会への参加</li> <li>・優良他施設の視察</li> </ul>	
⑧	経営改善職員提案制度	○職員への提案事項の募集	1件の応募がありましたが採用にはなりませんでした。	引き続き職員への周知を行い、経営参画意識の向上に努めます。

#### 4 未収金の縮減対策

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	診療費支払方法の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他施設訪問（支払機及び原価計算） 2回</li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・支払機について業者打合せ 2社 6回</li> <li>・クレジット業者打合せ 2社 5回</li> </ul> </li> </ul>	○現金自動支払機については当院の会計動線について、他施設で同じ運用をしている病院を視察し今後の参考にし、導入の可否を決定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現金支払機導入については患者の会計動線が変更（外来での会計コスト入力）にならない限り投資しても無駄になってしまうため、電子カルテの導入時期に合わせて考えます。</li> <li>○クレジット払いについては平成23年度稼働予定</li> </ul>
②	患者情報共有化の推進	<p>支払困難な患者のMSW*3の早期介入による対応</p> <p>随時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各診療科医師へ患者情報を提供し共有化</li> <li>・入院案内担当者を配置し、入院患者への説明の統一化</li> <li>・未収金担当部署と入院班の検討会を開催</li> </ul>	<p>4月～3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支払困難な患者のMSWの早期介入による対応件数は約154名</li> </ul> <p>随時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各診療科医師へ患者情報を提供し共有化</li> </ul>	<p>毎月実施</p> <p>[支払困難な患者に対するMSWの介入促進]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療科、病棟、外来、医事課において支払困難な患者を把握した場合のMSWの早期介入の実施</li> <li>・MSWの指示の下、情報を共有化して対応を検討</li> </ul> <p>[悪質な未収患者の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各診療科、病棟、MSWと医事課との相互連絡により再来時、再入院時の未収患者との接触、面談の強化</li> </ul>
③	未収金徴収対策の強化	<p>8月</p> <p>未収金台帳管理をより詳細に把握するため、原因別分類項目の様式を追加</p> <p>10月</p> <p>未収金相談コーナーの設置</p>	<p>訪問徴収</p> <p>12月実績</p> <p>訪問件数119件 金額25,000円</p> <p>3月実績</p> <p>訪問件数98件</p>	<p>少額訴訟等の制度活用検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・債権回収業者（民間事業者）の活用（委託の検討）</li> <li>・関係市の状況、他自治体病院の状況調査</li> </ul>

	12月、3月 事務局管理職による訪問徴収の実施	<p>金額103,720円 患者負担未収金不納欠損額年度別比較 平成21年度 13,019,157円 平成22年度 6,525,926円 効果額 △6,493,231円</p> <p>4月～3月 患者負担未収金回収額年度別比較 ・平成21年度 未収金回収額(回収率) 143,686,789円(50.3%) ・平成22年度 未収金回収額(回収率) 152,151,052円(53.6%)</p> <p>患者負担未収金発生額年度別比較 ・平成21年度 未収金発生額 154,897,741円 保険会社直接請求額 56,524,829円 ・平成22年度 未収金発生額 192,552,738円 保険会社直接請求額 104,713,484円</p> <p>患者負担未収金残額年度別比較 ・平成21年度 未収金残額 283,692,394円 患者請求額 98,372,912円 ・平成22年度 未収金残額 319,568,154円 患者請求額 87,839,254円</p> <p>※平成22年度未収金残額が増加しているのは、保険会社へ直接請求分が増加したことによる。直接請求分については殆どが回収の見込みがあり、平成23年度の未収金回収額増加が見込まれる。</p>		<p>担当職員の配置検討 ・窓口会計担当と未収金担当職員の分離 ・債権回収業者委託の活用の検討</p> <p>[実施] ・医療費クレジットカード払いの実施 ・担当職員の配置</p>
--	----------------------------	---	--	--

5 経営分析による経費削減対策

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	人件費の削減	①人事院勧告に倣い、給料月額・中高年齢層限定(0.19%減)及び期末・勤勉手当(0.2月分減)の引下げを実施 ②管理職手当の引下げ(支給率の30%減)を実施	企業団全体で、 ①△72,957千円の削減効果 ②△23,465千円の削減効果	引続き、調査、検討を行います。
②	材料費の削減	[薬品費] 薬価改定年度であるため、6ヶ月毎に業者選定を実施し、さらに3ヶ月後に価格交渉を	平成22年4月に薬価改正があったため、効果額については検証できませんでした(購入品目及び数量を平成21年度と	平成23年 3月 平成23年度薬品競争見積実施 6月 平成23年度価格見直し

	実施	同じと仮定した場合の単純比較ができませんでした。	<p>実施予定</p> <p>9月 平成23年度価格見直し実施予定</p> <p>12月 平成23年度価格見直し実施予定</p> <p>平成24年</p> <p>3月 平成24年度薬品競争見積実施予定</p> <p>以降、業者選定・競争見積を実施予定</p>
	<p>【診療材料費】</p> <p>平成22年</p> <p>3月 平成22年度診療材料上半期競争見積実施</p> <p>9月 平成22年度診療材料下半期競争見積実施</p> <p>平成23年</p> <p>3月 検査試薬競争見積実施</p>	<p>購入品目及び数量が、平成21年度と同じと仮定した場合の差額（変動費なので単純比較するため）</p> <p>【診療材料】</p> <p>&lt;4月～9月&gt;</p> <p>H21購入額 914,754,499円</p> <p>H22仮定額 889,347,693円</p> <p>差額 25,406,806円</p> <p>&lt;10月～3月&gt;</p> <p>H21購入額 937,234,417円</p> <p>H22仮定額 927,084,071円</p> <p>差額 10,150,346円</p> <p>【検査試薬】</p> <p>&lt;4月～3月&gt;</p> <p>H21購入額 159,080,760円</p> <p>H22仮定額 158,587,640円</p> <p>差額 493,120円</p> <p>差額合計 36,050,272円</p>	<p>平成23年</p> <p>3月・平成23年度上期診療材料競争見積実施</p> <p>・平成23年度検査試薬競争見積実施</p> <p>9月 平成23年度下期診療材料競争見積実施予定</p> <p>平成24年</p> <p>3月・平成24年度上期診療材料競争見積実施予定</p> <p>・平成24年度検査試薬競争見積実施予定</p>
③	<p>その他経費の節減</p> <p>【旅費】</p> <p>職員の職種別の状況調査日当については、医師による学会出席のケースが多いため、他病院の動向を調査しました。</p> <p>【光熱水費】</p> <p>電気料金・ガス料金・空調機の運転スケジュール及び温湿度を前年度比0.5%削減</p>	<p>他病院の動向を把握し、検討材料とすることができました</p> <p>&lt;使用量&gt;</p> <p>電気</p> <p>平成21年度 11,509,908kwh</p> <p>平成22年度 11,490,174kwh (0.2%減)</p> <p>ガス</p> <p>平成21年度 2,631,634m<sup>3</sup></p> <p>平成22年度 2,754,665m<sup>3</sup> (4.7%増)</p> <p>&lt;料金&gt;</p> <p>電気</p> <p>平成21年度 142,404,038円</p> <p>平成22年度 149,540,323円 (5.0%増)</p> <p>ガス</p> <p>平成21年度 130,510,853円</p> <p>平成22年度 154,165,390円 (18.1%増)</p>	<p>医師の学会出席は、専門医への資格要件に該当することや、診療報酬にも影響があることから、学会出席が減少することによる損失も考慮しなければならないため、日当の適正化については再検討をします。</p> <p>平成23年7～9月の電力使用量を、昨年度同月と比較して15%削減を目指します。</p>

			※電気は使用量微減、ガスは使用量増 ※料金は電気・ガスとも原油値上がりにより単価増	
		[ごみ処理費] ①不法投棄の呼水となる敷地内の粗大ごみの処理 ②グループウェアによる周知	①処理済 ②患者増、感染対策強化により総量が増加 ◆感染性廃棄物(廃プラ含む) ・排出量 前年度比 8,439kg増 20年度比 22,389kg増 ・処分委託料 前年度比 2,289,384円減 20年度比 2,105,349円減 ◆一般廃棄物 ・排出量 前年度比 17,410kg増 20年度比 399,360kg増 ・処分委託料 20年度比 112,770円増	引続き、廃棄物の排出量減を目標に啓蒙を行います。
		[分院敷地賃借料] 平成21年度敷地取得済み		
④	不採算部門の見直し	・他施設訪問 1回 ・業者との打合せ 2回 ・業者の研修会参加 1回	システムの構築について検討できました。また、医務局との調整には慎重をきたす必要があることが分かりました。	部門別原価計算については、各部署、特に医務局との協議を実施しないと、求められる分析が無駄になる可能性があります(過去2度実施した改善策より)。そのために十分な協議が必要であり、平成23年度中に各部署との協議を設け、平成24年度で導入を図りたいと思います。
⑤	業績評価制度の導入	次年度、全職員を対象することを検討しました。	評定者が被評定者(部下)の人事管理の徹底を図ることができました。	分析方法を研究します。

## 2 経営の安定と医療サービスの充実

### (1) 医療提供体制の整備

#### 1 地域医療連携の推進

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	関係医療機関との役割分担	6月 病診連携推進会議 君津木更津医師会で同会役員と君津中央病院幹部職員が参加  7月 共同利用施設運営委員会 君津中央病院で関係市の行政関連職員と君津木更津医師会役員の参加を得て実施 千葉県共用地域連携パス*4の推進 千葉県共用がん地域連携パス連絡会議を県健康福祉部健康づくり支援課長の応援を得て開催し、近	地域連携の集い(参加者93名)  県共用地域連携パスの推進 ・千葉県共用脳卒中地域連携パス(59症例) ・千葉県共用がん地域連携パス(6症例)  症例検討会(50症例)	○地域医療支援事業の推進に伴い地域医療支援病院委員会を開催し、医師会・歯科医師会・行政との連携強化を図ります。 ○県共用地域連携パスの推進し、シームレスな医療の展開に努めます。

		隣の医師へパスの説明、 協力を依頼 10月 千葉県共用地域連携パスの 推進 10月から地域の医療施設 を3月までに31件訪問し 県共用地域連携パスの理 解と普及に努める 2月 地域連携の集い 4月～3月 症例検討会の実施		
②	広報紙による周知	地域住民に向けて、医療機能 分担と連携を理解していただき、 地域医療支援病院紹介率 の向上（紹介患者数の増）を 図る目的で「上手な医療の受 け方」を君津中央病院広報誌 クローバーと関係市の暮らし の手帳に掲載。また、公開講 座でのプレゼンテーションを 実施	かかりつけ医からの紹介患者 が増え、医療機能分担と連携 を推進できました。	○地域医療機関との連携強化 ○地域医療連携のネットワー ク構築 ○紹介率・逆紹介率の維持に ついて協力を得るように院 内外の啓蒙に努めます。
③	地域連携パスの検討	4月 ・医師会、患者への周知 ・地域連携診療計画管理料施 設基準届出（千葉県共用脳 卒中地域連携パス運用開 始） 7月 ・千葉県共用がん地域医療連 携パス説明会開催（医師会 への説明、協議） 9月 ・地域連携医療機関への訪問 説明 ・がん診療連携計画策定料施 設基準届出（千葉県共用が 地域医療連携パス運用開	○地域連携診療計画管理料 （900点）の施設基準を取得 ・千葉県共用がん地域連携パ ス（6症例） ・千葉県共用脳卒中地域連携 パス（59症例）	地域連携パスの活用、実施、 症例数の増加 ○地域連携パス、クリニカル パス委員から各診療科に提 案、調整 ○地域連携室と医師会、関係 地域医療機関に提案 ○地域連携パスを医師会や地 域医療機関等と共同で実施

## 2 医療安全対策

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	電子カルテシステムの導入	2月 第三次情報システム整備計 画推進委員会の発足 ・2回の委員会を実施し、電 子カルテ導入にあたっての 検討点の洗い出し等を行 いました。	検討点の洗い出しにより、今 後の行動目標が明確になりま した。	次期中期計画での実施に向 けて、電子カルテ導入の基本 計画策定と本計画に基づいて 行動します。
②	医療安全対策の一層の充実	<医療安全研修会> 6月 「医療事故の初期対応につ いて」 3月 「インシデントレポート年 間報告」	職員の医療安全に対する意識 啓発と事故防止対策等の情報 の共有	継続的に医療安全研修会を実 施します。

## 3 医療の質の向上

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	診療パフォーマンス*5 指標の他施設比較	毎月 ・25日までに診療データを厚生労働省に提出 ・分析（出来高比較等）結果を医事委員会に報告 ・他の施設と比較しクリニカルパス実施の疾病について内容の再検討  5月 ・DPC講演会開催（県内他施設と当院のデータ比較、分析）	DPCデータをもとに既存のクリニカルパスの質の向上と効率化を図りました。	○平成22年度の科別の収益及び比較 ○分析結果をクリニカルパス委員会に提出し検討修正事項を各科医師と調整 ○各病棟の症例検討会にDPC分析結果、他施設比較情報を随時報告
②	リニアック*6の更新	5月 医療機械・物流管理委員会開催 6月 制限付き一般競争入札告示開札 10月 ・リニアック室改修工事開始 ・リニアック改修工事に伴う治療計画対応 12月～ リニアック機器納入	平成22年度更新しました。	平成23年5月上旬から稼働開始予定

#### 4 患者サービスの向上

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	患者満足度調査	院内に設置した投書箱から患者様の「声」を集め、業務改善委員会で改善項目を協議。平成22年度に行った主な改善項目は以下のとおり。 ・1階外来会計待合椅子の配置直し	利便性の向上が図られました	患者様からの意見、要望等を収集し業務改善を行うため、満足度調査を行います。
②	外部評価の推進	改善対策を実施しました。	5月 条件付認定から本認定を受けました。	
③	速やかな診療情報の提供	2月 第三次情報システム整備計画推進委員会の発足 ・2回の委員会を実施し、電子カルテ導入にあたっての検討点の洗い出し等を行いました。	検討項目の抽出により、今後の行動が明白になりました。	次期中期計画での実施に向けて、電子カルテ導入の基本計画策定と本計画に基づいて行動します。
④	ホームページの内容充実	病院サイトの構築作業	病院サイトの更改を実施し、情報発生源での更新作業が可能となりました。	

#### (2) 診療機能の整備充実

##### 1 救急医療体制の充実

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	ヘリポートの整備	平成21年度対応済み		

②	救命救急センターの充実	8月 救急看護認定看護師を採用	救急看護、救急医療の知識の伝達及び技術取得の支援	○ICU病棟の稼動病床を増やします(看護師を確保)。 ○救急患者をできるかぎり対応し救命救急センターを充実させます。
③	ドクターカーの更新	平成21年度対応済み		
④	災害医療対応マニュアルの見直し	次の3つの対応への取組み ① 県外への派遣要請は、「千葉県DMAT運用マニュアル」に基づく対応 ② 県内の地域で災害が発生し当院が被災していない場合は、当院への派遣要請は「千葉県DMAT運用マニュアル」に基づく対応。また、当院の受入れ要請の対応は災害マニュアルに基づく対応 ③ 当圏域が被災地の場合、千葉県災害対策本部を通じ県外からの派遣要請を行い、当院への受入れ対応は、災害マニュアルに基づく対応 ※当院の受入れについて防災マニュアルの作成	○3名のDMAT隊員を養成 ○九都縣市合同防災訓練のほか多数の災害医療訓練への参加による修練 ○防災マニュアルの整備	平成23年度 被災者、DMAT隊員の受入れマニュアルの骨子・素案の作成  防災マニュアルに基づき、備蓄品の整備
⑤	新型インフルエンザ等感染症対策の充実	8月(川崎)、10月(千葉) 九都縣市新型インフルエンザ対策研修会参加 9月 新型インフルエンザワクチン接種受入について関係市及び医師会と協議(小児科、紹介患者を受入対象) 11月 新型インフルエンザワクチン接種(医療従事者)  地域の他医療機関で実施が困難な症例や小児科受診患者のワクチン接種について対応	22年度インフルエンザワクチン接種患者数 409件	23年4月より新型インフルエンザ(A/H1N1)は季節性インフルエンザ対策へ移行。「インフルエンザ(H1N1)2009」に名称変更
⑥	リニアックの更新【再掲】	5月 医療機械・物流管理委員会開催 6月 制限付き一般競争入札告示開札 10月 ・リニアック室改修工事開始 ・リニアック改修工事に伴う治療計画対応 12月～ リニアック機器納入	平成22年度更新しました。	平成23年5月上旬から稼動開始予定

## 2 外来施設機能の充実

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	透析センターの拡大【再掲】	毎月 開設準備室の会議を開催 5月 院内施設機能検討委員会血液浄化療法センター部会にて、血液浄化療法センター（新築）仕様の承認 6月～7月 実施設計一般競争入札告示開札 8月 透析装置購入一般競争入札告示、開札 10月～11月 新築工事一般競争入札告示開札 11月～3月 血液浄化療法センター新築工事 3月 透析装置納入	50床の血液浄化療法センター新築の推進	平成23年4月 新血液浄化療法センター供用開始

### 3 施設・設備・機器の計画的整備

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	医療機器更新の計画策定及び実施	5月 ・医療機械・物流管理委員会開催 ・平成22年度購入機器の承認 7月 ・医療機械順次購入執行 ・医療機械器具費予算要求ヒアリング 9月 予算要求 3月 ・医療機械・物流管理委員会開催 ・平成23年度購入機器（案）の確認	医療機械予算額 本院 697,800,000円 分院 2,200,000円 合計 700,000,000円 医療機械執行額 本院 613,795,333円 分院 2,186,225円 合計 615,981,558円 執行残 84,018,442円 ※主な更新医療機器 リニアック、脳波計、保育器、眼底カメラ、全身麻酔器	5月 ・医療機械・物流管理委員会開催 ・平成23年度購入機器の承認 5月～3月 医療機械順次購入 8月～10月 平成23年度医療機械器具費予算要求ヒアリング 10月 次年度予算要求
②	地上デジタル放送への対応	本院 7月 病棟テレビシステム契約更新 9月 更新テレビ必要台数調査 看護学校 6月 学生寮アンテナ工事	・病棟テレビカードシステム更新 ・アナログテレビの台数は約60台	・アナログテレビの更改（約60台）
③	大佐和分院の敷地取得	平成21年度対応済み		
④	分院整備計画案の作成	4月 分院施設機能検討委員会の設置 委員会構成員の選出 8月 会議の開催 今後の進め方についての検討	整備計画の作成には様々な調査が必要との判断に至り、マスタープラン作成の委託費を予算計上しました。	・マスタープラン委託業者の選定、発注 ・分院施設機能検討委員会にて報告、協議 ・将来構想検討委員会にて報告、協議 ・企業団施設機能検討委員会にて報告、協議

(3) 事務処理の効率化等

1 情報システム整備

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	医療情報基幹システムの更新・機能拡張	○主要業務システム（オーダーリングシステム、医事会計システム、看護支援システム）のサーバー装置等の更改実施。（5月）	○オーダーリングシステムの停止時間の縮小（月40時間停止→月3時間停止）による利用環境改善他。	○システム更改と画像参照環境の整備（予算措置額は、システム更改及びモニタ増設他）
		○保守対応年限が到来する現行画像管理システム更改検討	○費用概算の算出と平成23年度予算の確保	
②	医療情報各部門システムの更新	○以下のシステムの更新検討を行いました。 ・検査部門システム、再来受付システム、調剤支援システム、給食管理システム、リハビリテーション業務システム、外来呼出システム、ナースコールシステム ○その他更新対象システム洗出しを行いました。	以下のシステムの更新（更新支援）を行いました。 ・検査部門システム、細菌検査システム、再来受付、調剤支援システム、給食管理システム、病理検査	未更新システムの更新検討、実施  予算措置 11,821千円 ※医療系・事務系システムの合計額
③	事務管理業務のシステム化	○事務系ファイルサーバの設置 ○予算要求のオンライン化の検討	データ共有による業務効率の向上基盤を構築	予算要求のオンライン化
④	医療情報基幹システムデータの二次利用基盤の構築	オーダーリングシステムの更改により、実装されたレポート作成機能の活用を検討しました。	「他科依頼書」として活用中（運用面や他文書への展開を課題としている）	○導入済みのレポートシステム及び診断書作成システム等により、オーダーリングシステムのデータを活用した医師事務合理化を中心に検討 ○原価計算は、平成23年度の検討案件となっており、その進捗により対応を判断
⑤	システム基盤の拡張・整備	○外来診察室オーダー、医事会計、病棟プリンターの入替え並びに外来、病棟のオーダーリングシステム端末のモニターの大型化の実施 ○院内全体で利用できるファイル共有環境を整備 ○事務系OA端末の入替	業務効率や情報セキュリティ面の向上	○事務系OA端末は、事務室移転に合わせて実施 ○外来スタッフルームの端末増設  予算措置 20,475千円 ※業務プログラムライセンス及び機器分の合計額
⑥	インターネット利用環境の整備	○インターネット機器の配置計画や部門要求による機器の増設並びに旧式機器の入替えに努めました。 ○新規契約のホスティングサービスを活用し、より高機能なメールサービスへの切り替えを開始	インターネット利用環境の向上	インターネット利用基準作成など未対応事項への対応を行いました。
⑦	ネットワーク設備の更新	○検査部門システム更改に合わせて、同システムのネットワーク機器の入替えを実施。	安定したネットワーク環境の提供	○院内ネットワーク更新・増設計画の作成 ○負荷分散、障害対策としての機器の増設並びに更改

⑧	情報システムの適切な管理の実施	○オーダー端末及びOA端末を中心としたウイルス対策ソフトの管理環境を整備しました。 ○Officeソフトの適正なライセンス運用に努めるため、ライセンスを追加調達しました。 ○備品調達事務の執行課への移管に対応	ウイルス対策環境は概ね対応完了し、維持管理を継続中	○システム調達手順のルール化や管理規定の整備など、機能評価V6未対応事項への対応を継続して行います。  予算措置 15,750千円 ※OA系プログラム製品、共有インフラ設備他合計額
⑨	学籍管理システムの更新	ソフトウェアの修正を要望し面接者評価の入力項目の拡大を依頼	一般入試のデータ入力を行い事務の簡素化が図れました。	新システムの有効活用による事務作業量軽減
⑩	紹介患者管理機能のシステム整備	現在利用している管理システムの更改検討	業者を決定し、導入作業に移行予定です。	紹介状管理システム及び医療機関データの院内共有環境構築を目標にシステム化の具体案の検討・実施

## 2 組織・機構の見直し

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	病院各部署の改革	①衛生管理者の専任者を設置することを検討しました。 ②看護学校の補充専任教員に向けての対応を検討しました。	①平成23年度設置予定 ②平成23年度県より専任教員を補充予定	組織・機構の見直しを行います。
②	責任体制の強化	会議等を定期的開催し、各部門間の連携の緊密化及び情報の共有化を図りました。 ①管理運営会議 （局長級以上）…毎週1回 ②代表者連絡調整会議 （次長級以上）…毎月2回 ③病院運営連絡会議 （部長級以上）…毎月1回	各部門間の連携の緊密化及び情報の共有化を図ることができました。	引続き会議等を開催し、各部門間の連携を図ります。
③	給食業務の改善	臨床栄養科の人件費の調査を実施	(未着手)	直営と委託との比較検討。判断項目の研究
④	診療報酬請求事務委託の検討	課内ヒアリング、課内異動実施	課内の一部門に業務委託の可能性を見出しました。	業務委託する場合の課題の洗い出し、対策の検討

## 3 看護学校等の整備

No.	項目	平成22年度の達成状況		平成23年度の計画
		取組内容	成果	
①	看護学校等の機能等の検討	①新校舎及び学生寮の建設に係わる検討を行う組織として「君津中央病院附属看護学校建設検討委員会」を設置（平成23年3月） ②次の新設の看護学校を視察（平成22年12月） ・千葉医療センター附属千葉看護学校 ・千葉市青葉看護専門学校	①組織が明確化され、委員会での検討を進めることが可能となりました。 ②他校の建設概要等の情報収集が図れました。	厚生労働省の基本方針により課程の変更及び学校建設の基本構想の構築を検討します。
②	看護学校整	他校の建設概要の情報収集、	各諸室の法的必要床面積及び	引続き優良看護学校の視察実

	備構想等の作成	各諸室の法的根拠の研究 ○次の新設の看護学校を視察 (平成22年12月) ・千葉医療センター附属千葉看護学校 ・千葉市青葉看護専門学校	設備等の認識	施
--	---------	---	--------	---

**\* 1 地域医療支援病院**

医療は身近な地域で提供されることが望ましいという観点から、かかりつけ医、かかりつけ歯科医を地域における第一線の医療機関として位置付けるとともに、これらの医療機関を支援し、二次医療圏単位で地域医療の充実を図る病院として地域医療支援病院制度を医療法上位置付けたものです。病院からの申請により知事が承認するもので、承認を受けるためには、病床数、紹介率等が要件となっています。

**\* 2 D P C**

Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類別包括評価制度と訳されます。従来の診療行為毎に計算する出来高払い方式とは異なり、入院患者の病気とその症状を基に国で定めた1日あたりの定額の点数からなる包括評価の範囲（投薬、注射、入院料等）と出来高評価の範囲（手術料、麻酔料等）を組み合わせで診療費を計算する方式です。

**\* 3 M S W**

Medical Social Workerの略で、医療ソーシャルワーカーを意味します。社会福祉の理論と技術を習得した社会福祉専門職をソーシャルワーカーと呼びますが、特に医療福祉分野で相談業務に従事する専門職を医療ソーシャルワーカーと呼びます。

**\* 4 地域連携パス**

疾病別に地域の保健・医療・福祉関係者の具体的なケアやサービスの手順を示した計画であり、サービス提供者と患者用で1セットとなるものです。患者様や関係する医療機関で共有することにより、効率的で質の高い医療の提供と患者の安心の確保が見込まれます。

**\* 5 診療パフォーマンス指標**

D P Cデータの分析結果を定期的に医師へフィードバックすることにより、医療の質と経済性の改善を目指すものです。

**\* 6 リニアック**

電子を高速に加速して金属ターゲットに当てX線を発生させる医療用直線加速装置（Linear accelerator）の略で、X線や電子線の出力量が大きく、短時間の照射で広域にわたる治療ができます。正常組織が受けるダメージが比較的緩いのが特徴となっており、頭部から手足にいたるまで全身に使用できます。

## 財務計画の達成状況

### 1. 業務予定量<本院>

(単位:人)

		計画数	予算数	決算数	達成率	備考
延 患 者 数	入院	215,350	206,225	204,095	94.8%	
	外来	329,120	298,890	289,001	87.8%	
1 日 平 均 患 者 数	入院	590	565	559	94.7%	
	外来	1,360	1,230	1,189	87.4%	

### 2. 収益的収支計画<本院>

(単位:百万円)

		計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
患 者 1 人 1 日 あ た り 診 療 額	入院	48,800円	55,600円	55,695円	114.1%	
	外来	9,100円	11,000円	11,580円	127.3%	
本院事業収益		15,839	17,104	17,097	107.9%	
医業収益		14,034	15,282	15,214	108.4%	
入院収益		10,509	11,466	11,353	108.0%	
外来収益		2,995	3,288	3,347	111.8%	
その他医業収益		530	528	514	97.0%	
医業外収益		1,805	1,822	1,883	104.3%	
負担金交付金		1,376	1,377	1,373	99.8%	関係市負担金
本院事業費用		15,811	16,703	16,530	95.7%	
企業団管理費		2	2	2	100.0%	
医業費用		15,052	15,910	15,696	95.9%	
給 与 費		8,546	8,875	8,866	96.4%	
材 料 費		3,481	3,976	3,935	88.5%	
経 費		1,653	1,748	1,598	103.4%	
減価償却費		1,261	1,227	1,211	104.1%	
資産減耗費		44	25	17	258.8%	
研究研修費		67	59	69	97.1%	
医業外費用		757	791	832	91.0%	
支払利息		340	340	340	100.0%	
経常損益		28	401	567	2025.0%	
看護師養成事業収益		159	159	158	99.4%	
(負担金交付金)		130	127	127	97.7%	関係市負担金
看護師養成事業費用		159	159	134	118.7%	
特別利益		0	2	0	-	
特別損失		23	20	20	115.0%	
予備費		5	5	8	160.0%	
当年度純損益		0	376	563	皆増	

## 1. 業務予定量&lt;分院&gt;

(単位:人)

		計画数	予算数	決算数	達成率	備考
延 患 者 数	入院	11,680	12,045	11,995	102.7%	
	外来	62,920	55,890	53,825	85.5%	
1 日 平 均 患 者 数	入院	32	33	33	103.1%	
	外来	260	230	222	85.4%	

## 2. 収益的収支計画&lt;分院&gt;

(単位:百万円)

		計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
患 者 1 人 1 日 あ た り 診 療 額	入院	28,100円	27,000円	27,792円	98.9%	
	外来	5,030円	5,400円	5,187円	103.1%	
分院事業収益		695	673	667	96.0%	
医業収益		681	655	643	94.4%	
入院収益		328	325	333	101.5%	
外来収益		317	302	279	88.0%	
その他医業収益		36	28	31	86.1%	
医業外収益		14	18	24	171.4%	
負担金交付金		0	0	0	-	関係市負担金 0
分院事業費用		694	673	624	111.2%	
医業費用		682	661	614	111.1%	
給 与 費		479	453	448	106.9%	
材 料 費		92	89	80	115.0%	
経 費		77	83	56	137.5%	
減価償却費		30	32	29	103.4%	
資産減耗費		2	2	0	-	
研究研修費		2	2	1	200.0%	
医業外費用		12	12	10	120.0%	
支払利息		0	0	0	-	
経常損益		1	0	43	2.3%	
特別利益		0		0	-	
特別損失		1		1	100.0%	
当年度純損益		0	0	42	皆増	

### 3. 資本的収支計画

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
資本的收入	0	0	5	0.0%	
企業債	0	0	0	-	
出資金	0	0	0	-	
他会計負担金	0	0	0	-	
国県補助金	0	0	0	-	
長期貸付金返還金及び返還免除金	0	0	5	0.0%	
資本的支出	2,113	2,745	2,534	119.9%	
建設改良費	1,213	1,807	1,634	134.7%	
建設工事費	250	460	459	183.6%	
設備費	963	1,347	1,175	122.0%	
土地購入費	0	0	0	-	
企業債返還金	899	899	899	100.0%	
国県補助金返還金	0	0	0	-	
投資及び有価証券取得費	0	38	1	-	
予備費	1	1	0	0.0%	
差引資金不足額	2,113	2,745	2,529	119.7%	

### 4. 内部留保資金の計画

#### (1) 損益勘定留保資金

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
過年度損益勘定留保資金	2,867	3,250	3,416	119.1%	
当年度損益勘定留保資金	1,480	1,426	1,102	74.5%	
留保資金使用額	2,113	2,365	2,528	119.6%	
翌年度繰越額	2,234	2,311	1,990	89.1%	

#### (2) 法定積立金等

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
減債積立金残高	0	15	15	皆増	
財政調整積立金残高	0	277	277	皆増	
積立金取崩額	0	0	0	-	
翌年度繰越額	0	292	292	皆増	

### 5. 構成市からの負担金

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
本院事業	1,370	1,373	1,373	100.2%	
分院事業	0	0	0	-	
看護師養成事業	130	127	127	97.7%	
合計	1,500	1,500	1,500	100.0%	

## 6. 企業債

### (1) 企業債償還額

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金償還額	899	899	899	100.0%	
利子償還額	340	340	340	100.0%	
合計	1,239	1,239	1,239	100.0%	

### (2) 企業債残高

(単位:百万円)

	計画額	予算現額	決算額	達成率	備考
元金予定残高	20,989	20,989	20,989	100.0%	
利子予定残高	3,480	3,480	3,480	100.0%	
合計	24,469	24,469	24,469	100.0%	

## 7. 経営指標

		計画額	22年度	達成率
病床利用率	本院	89.3%	84.6%	94.7%
	分院	88.9%	91.3%	102.7%
経常収支比率	本院	100.2%	103.4%	103.2%
	分院	100.1%	106.9%	106.8%
医業収支比率	本院	93.2%	96.9%	104.0%
	分院	99.8%	104.8%	105.0%
職員給与比率 (医業収益比)	本院	60.9%	58.3%	104.5%
	分院	70.3%	69.5%	101.2%
材料費比率 (医業収益比)	本院	24.8%	25.9%	95.8%
	分院	13.5%	12.4%	108.9%
企業債償還元金比率 (医業収益比)	本院	6.4%	5.9%	108.5%
	分院	-	-	-
企業債償還利息比率 (医業収益比)	本院	2.4%	2.2%	109.1%
	分院	-	-	-

### 【指標の計算式】

病床利用率＝延入院患者数÷延稼動病床数×100

経常収支比率＝経常収益÷経常費用×100

医業収支比率＝医業収益÷医業費用×100

職員給与費比率(医業収益比)＝給与費÷医業収益×100

材料費比率(医業収益比)＝材料費÷医業収益×100

企業債償還元金比率(医業収益比)＝企業債償還元金÷医業収益×100

企業債償還利息比率(医業収益比)＝企業債償還利息÷医業収益×100

## 経営改革委員会の評価

### 【君津中央病院企業団経営改革委員会委員】

君津中央病院長、君津中央病院副院長、君津中央病院大佐和分院長、君津中央病院事務局長、君津中央病院事務局次長、木更津市市民部長、木更津市財務部長、君津市保健福祉部長、君津市財政部長、富津市健康福祉部長、富津市企画財政部長、袖ヶ浦市市民健康部長、袖ヶ浦市企画財政部長

経営指標に係る数値目標の達成状況

#### 企業団

概ね数値目標を達成している。引続き次年度以降もこの達成率を維持していくよう努めていく。

#### 木更津市

概ね数値目標を達成している。引続き次年度以降もこの達成率を維持していくよう努められたい。

#### 君津市

概ね数値目標を達成している。引続き次年度以降もこの達成率を維持していくよう努められたい。

#### 富津市

達成率に達していない病床利用率も、対前年度を上回っているため、引続き維持向上に努められたい。

#### 袖ヶ浦市

経営指標における計画数値は概ね達成されている。次年度以降も目標を達成するよう努められたい。また、未達成項目については達成できるよう努力されたい。

### 1 収支の改善

#### 1 医師及び看護師の確保対策

##### 企業団

概ね数値目標を達成している。医師は、引続き減員となった診療科の原因等を分析し、次年度の目標設定を数値目標だけではなく、対策等の計画も考慮していく。また、看護師は、認定看護師等上位の資格を有する者が増加してきており、評価できる。

##### 木更津市

概ね数値目標を達成している。引続き次年度以降も達成率を維持するよう努められたい。また、診療制限をしている診療科については、医師の増員と併せて制限の解除に努められたい。

##### 君津市

概ね当初の目的を達成している。地域医療支援病院としての機能を果たすためにも、引続き医師確保に努められたい。

##### 富津市

色々な取り組みにより一定の成果は出ているが、看護師は診療科によってはまだ不足していると思われるので、より一層の充実をされたい。また、認定看護師を育てて欲しい。なお、腎臓の医師（透析医）の充実（特に若手）を望む。

##### 袖ヶ浦市

正規職員医師の確保については、わずかであるが目標を下回った。泌尿器科等不足する診療科目について、今後も医師確保に努力されたい。看護師確保対策では、院内保育所の充実などにより、一定の成果が得られた。引続き環境の整備を推進されたい。

#### 2 患者数の増加対策

##### 企業団

概ね年度目標を達成している。今後は、平成22年度実施調査の結果を活用し、待ち時間の改善など、診療状況の改善や新規患者受入枠の拡大に努める。紹介率、逆紹介率の増加は評価できる。

##### 木更津市

診療科目や透析センターの拡大、外来施設機能の充実、紹介患者及び逆紹介患者の増加など良好な結果となっている。引続き一層の増加に努められたい。

##### 君津市

概ね達成しているが、今後も予約枠の増加に取り組まれたい。また、診療制限せざるを得ない診療科においては併せて医師確保に努め、患者サービスの向上に取り組まれたい。

##### 富津市

単に患者を増やすのではなく、外来環境の整備を充実する必要がある。待ち時間は患者の立場に立つべきで、「待ち時間が30分以内は予定通り」では、患者は納得しない。予約の受付により、一層の工夫をされたい。

##### 袖ヶ浦市

血液浄化療法センターの、早期の完全稼働に努められたい。また、予約診療待ち時間の短縮に努めるとともに、当日電話予約の拡充に向け検討されたい。

#### 3 収入の確保対策

##### 企業団

概ね年度目標を達成している。地域医療支援病院の承認は、評価できる。

木更津市

概ね目標を達成している。経営改善職員提案制度については、引続き職員への周知を行い、職員の経営参画意識の向上に努められたい。

君津市

数値目標を達成している。引続き次年度以降もこの達成率を維持していくよう努められたい。

富津市

努力していることは評価できる。ドクターヘリ事業は、患者を他病院へ運ぶ意義はあると思うが、本院で全て受け入れられるように出来るなら、対費用効果の面でも良いと思われる。また、病床利用率の向上については、常に意識し利用率の向上に努められたい。

袖ヶ浦市

医師事務作業の軽減を図るとともに、平均在院日数の縮減に努め、病床利用の向上を図られたい。また、業務の効率化について職員提案がなされるよう、周知に努められたい。

4 未収金の縮減対策

企業団

概ね数値目標を達成している。引続き関係職種との連携による迅速な対応に努め、未収金発生の防止と早期回収に努める。

木更津市

未収金徴収対策の強化における訴訟手続き等を担当する専任職員の配分及び債権回収の委託において、計画では平成22年度に実施となっているが、未だ検討段階に踏み止まっているため、平成23年度の実現に向けて努力されたい。

君津市

患者情報共有化や督促の強化や分割払いの推進において、未収金は平成21年度に比べ、大幅に減額できているので、引続き次年度以降も達成率を維持していくよう努められたい。

富津市

訪問等の努力は評価できる。クレジットの導入検討は、進められたい。今後も未収金の増加が見込まれる中、徴収対策については強化する必要があると思われる。

袖ヶ浦市

未納者に対する法的手段の実施や債権回収を民間に委託するなど未収金の縮減に努力されたい。

5 経営分析による経費削減対策

企業団

前年度比においては、診療材料費や光熱水費（電気使用量）などの削減対策は効果があったところであるが、一般・感染性廃棄物の排出量が年々増加傾向にあることから、院内における削減対策の強化を講じる。

木更津市

人件費の削減については、給料月額（中高年齢層限定）、期末・勤勉手当及び管理職手当の削減を図られたが、構成市の状況を勘案し一層の削減に努められたい。材料費の節減については、引続き更なる値引率向上に努められたい。その他経費の節減については、旅費（日当）の4市の状況調査が完了していることから、早急に見直しを図られたい。

君津市

概ね数値目標は達成している。引続き次年度以降もこの達成率を維持していくよう努められたい。

富津市

人件費を減らす場合、特に看護師については優遇すべきである。また、あらゆる場面において、経費節減に努めているのは評価できる。光熱水費等公共料金に対するコスト削減について、全職員が削減意識を共有する必要がある。

袖ヶ浦市

諸経費の削減に努めるとともに、不採算部門の現状を分析し、経営の効率化に努力されたい。特に電気使用量は今後も大幅削減を求められることが予想されるため、計画的に対応されたい。

2 経営の安定と医療サービスの充実

(1) 医療提供体制の整備

企業団

概ね目標を達成している。今後は、院内情報共有による医療サービス提供体制の改善や、地域連携の強化のため電子カルテ導入の具体化等を進める。

木更津市

概ね目標を達成している。患者サービスの向上などについては、改善を図られたい。

君津市

電子カルテの早期導入に努められたい。

富津市

広報紙による周知は行われていると思われる。受診を含めた広報を積極的に進めてほしい。患者サービスの向上において、満足度調査、特に「声」の成果が「なし」だが、改善項目がないとは思えない。

袖ヶ浦市

地域の医療機関と連携を密にし、機能分担を推進されたい。また、患者満足度調査を継続して実施し、患者の意見、要望を把握するとともに、その実現に努められたい。電子カルテについては、早期に導入されたい。

(2) 診療機能の整備充実

企業団

概ね目標を達成している。東日本大震災に際しては、DMAT（災害医療派遣チーム）を2回にわたり派遣しており、評価できる。

木更津市

概ね目標を達成している。救命救急センターの充実及び分院整備計画案の作成については、達成率の向上を図られたい。

君津市

概ね数値目標は達成している。医療機器の更新については計画に基づき、効率的な執行に努められたい。

富津市

東日本大震災を受けての対策を万全にされたい。防災マニュアルの整備とあるが、大災害を含めた体制作りにより一層努力されたい。

袖ヶ浦市

救命救急センターの充実をはじめとして君津地域の中核的医療施設として、施設、設備、機器等の計画的整備に努められたい。また、防災マニュアルについては、東日本大震災を受けて再度見直しを行い、備蓄品の整備等に努められたい。

(3) 事務処理の効率化等

企業団

未達成の項目が多いため、今後、電子カルテ導入の具体化とともに、関連する事務処理システムの効率化等の検討に努められたい。

木更津市

病院各部署の改革や責任体制の強化などは良好な結果となっているが、情報システムの整備等については目標達成に向けた推進に努められたい。

君津市

概ね数値目標は達成している。今後も情報システムの整備等に努められたい。

富津市

ネットワークを含めてシステム化は評価できる。患者の会計待ち時間の短縮には、より努力されたい。

袖ヶ浦市

各種事務作業のシステム化を拡充し、特に未着手のシステム整備について早急に検討されたい。また、機構、組織の見直し等事務の効率化や、各部門間の連携の緊密化に努められたい。

財務計画の達成状況

企業団

概ね数値目標を達成している。本院の材料費については、内容を精査の上、次年度において対策を講じる。

木更津市

概ね数値目標を達成している。引続き次年度以降も達成率を維持するよう努められたい。

君津市

概ね達成されている項目もあるが、今後も医師確保に努め、外来患者の数の増加に努められたい。

富津市

経営指標もすでに目標を達成しており評価できる。

袖ヶ浦市

財務計画における未達成部分については、原因の分析等十分に検討し、次期計画に反映されたい。